

秋田県書道連盟会報

第 123 号
秋 田 県 書 道 連 盟
事務局
秋田市泉菅野一丁目18-1
三浦湯舟
長沼雅彦
発行人 三浦湯舟
編集 長沼雅彦
(題字：長沼雅彦)

<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>



秋田県書道連盟 会長
佐川 博之

「想定外」という言葉を言い訳にしない、という市民感覚が日本で芽生えたのは、9年半前の東日本大震災のときでした。

福島第一原発事故が起きた際、業界利益を追求した学者らがこの言葉を繰り返して、辟易したものです。考え得る最悪の地震や津波を想定し、現代科学の粋を集めた施設をなせつくりなかつたのか、誰もが疑問を覚え、不信任を募らせたのではないのでしょうか。

しかし大震災の後、地震や台風、豪雨など毎年のように発生する自然災害の現場では、「想定外の揺れだった」とか「氾濫が想定外に早かった」など、依然としてこの言葉は高い頻度で使われています。

地球上のすべての人たちが、新型コロナウイルスの脅威にさらされており、これも「想定外」と言っているのかどうかは、微妙なところがあります。

感染症の世界的流行、いわゆるパンデミックは、

ペスト、天然痘、コレラ、スペイン風邪など、人類の歴史で幾度となく繰り返されてきました。約100年前のスペイン風邪では世界で2千万〜5千万人が亡くなり、日本でも38万人以上の方が命を落としたとされており、

記憶に新しいところでは2009年の新型インフルエンザも世界的流行となりましたが、日本では死者数が少なく、危機感が薄れてしまいました。あの時に何らかの備えをしていたら、医療体制は今日のように混乱することはなかつたように思います。

コロナ禍で経済の大混乱も起きておりますが、混乱した人々たちによってもたらされる社会の分断という事態も生じました。緊急事態宣言下、飲食店に対して強引に営業中止を迫るなどの「自粛警察」という行為が横行し、日本人特有の「同調圧力」という言葉がクローズアップされました。感染者や濃厚接触者への誹謗中傷、検査や治療の最前線にいる医療従事者に対する偏見や差別行為など、人間の弱さが随所で露呈しました。

「混乱を深めている時だからこそ、県内書家たちがさまざまな思いを筆に込め、書を通じて広く世の人に訴えてはどうでしょう」と、長沼雅彦理事長

にお伝えしたのは、5月の連休ごろのことでした。

長沼理事長のご返事は明快でした。「私も書家、書愛好者は、文字を素材としている以上、言葉の意味と書的な視覚性との双方の関わりの上で作品を制作しています。このような時期に私どもの思いを筆に込めて世の人に訴えることは大変意義のあることです」。既に連盟のお仲間と策を練られていたように、ト展、紙上展で新しい発信の方法をとって、積極的に連盟を盛り上げたい」と意欲的でした。

直後に政府の緊急事態宣言が解除されたことなどもあり、計画はいったん保留となりましたが、長沼理事長とは「地域社会に混乱が生じたら、いつでも書力を発揮していこう」と話し合っており、

最近、秋田県民にとってうれしい「想定外」の出来事がありました。

安倍晋三首相の辞任を受けて、菅義偉官房長官が自民党総裁に選出され、秋田県出身者としては初めて第99代内閣総理大臣に就任しました。根本龍太郎、石田博英、村岡兼造、菅義偉と、戦後は4人も官房長官を輩出しているわが県ですが、国を治めるリーダーは初めてです。

「非世襲」「無派閥」「地方出身のたたき上げ」と、国民に共感が広がる要素を持ち合わせた宰相ですが、肝心なのは今後、国民のために何を成していかでしよう。日本の政治史では「長期政権の後は短期政権が来る」という流れのようですが、公約通り、菅首相が新型コロナウイルスの収束と経済再生を同時に成し遂げることができるなら、歴史の流れを覆す、うれしい「想定外」が起こるかもしれません。

(秋田魁新報社代表取締役社長)

「新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の定期総会は中止となりました。
4月28日付けの総会資料の配付をもって総会に替えさせていただきました。」

令和元年度 決算書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

収入総額 2,554,413円
支出総額 2,301,692円
差引残額 252,721円 (次年度繰越金)

収入の部

(単位：円)

| 費 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比 較 増 減 | 備 考 |
|------------|------------------|------------------|----------------|---|
| 前年度繰越金 | 261,899 | 261,899 | 0 | |
| 会費 | 750,000 | 705,000 | △ 45,000 | 本年度235名 |
| 寄付金 | 120,000 | 122,000 | 2,000 | 常任理事・理事 61名 |
| 事業収入 | 840,000 | 1,383,114 | 543,114 | 会報広告 ¥68,000 小品展目録広告 ¥223,000 出品料 ¥568,500(連盟展、小品展)。書初め席書大会 ¥523,614。 |
| 雑収入 | 30,101 | 82,400 | 52,299 | 総会等祝¥40,000 その他¥42,400 |
| 合 計 | 2,002,000 | 2,554,413 | 552,413 | |

支出の部

(単位：円)

| 費 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比 較 増 減 | 備 考 |
|------------|------------------|------------------|----------------|--|
| 事務費 | 387,000 | 354,240 | △ 32,760 | |
| 消耗品費 | 38,000 | 38,393 | 393 | 文具品、コピー用紙、出納簿等 |
| 通信費 | 159,000 | 143,107 | △ 15,893 | 郵送料、切手、案内ハガキ等 |
| 会議費 | 100,000 | 96,064 | △ 3,936 | 総会、役員会議会場費等 |
| 交通費 | 80,000 | 67,900 | △ 12,100 | 役員会議等旅費 |
| 諸費 | 10,000 | 8,776 | △ 1,224 | 各種振込み手数料 |
| 事業費 | 1,497,000 | 1,322,273 | △ 174,727 | |
| 総務部費 | 44,000 | 0 | △ 44,000 | |
| 研修部費 | 159,000 | 133,970 | △ 25,030 | 各研修会、講師謝礼等年間部活動費 |
| 展覧会部費 | 266,000 | 217,550 | △ 48,450 | 連盟展、小品書展等 |
| 広報部費 | 50,000 | 49,910 | △ 90 | 会報発行(年2回)等 |
| 広告部費 | 40,000 | 45,994 | 5,994 | 事業広告協賛依頼等 |
| IT部費 | 108,000 | 95,658 | △ 12,342 | ホームページ維持管理等 |
| 連盟展事業費 | 230,000 | 262,784 | 32,784 | 会場費、目録、案内ハガキ等その他 |
| 書初め大会費 | 32,000 | 0 | △ 32,000 | |
| 印刷出版費 | 467,000 | 422,620 | △ 44,380 | 会報、諸会合資料作成等 |
| 筆塚供養費 | 51,000 | 50,727 | △ 273 | 筆供養謝礼、参加者(子供)記念品代 |
| 活性化委員会費 | 50,000 | 43,060 | △ 6,940 | 通信費、会場費等年間部活動費 |
| 負担金 | 30,000 | 30,000 | 0 | 県芸文協会会費 |
| 表彰費 | 10,000 | 0 | △ 10,000 | |
| 慶弔費 | 25,000 | 20,779 | △ 4,221 | |
| 雑費 | 3,000 | 12,000 | 9,000 | 新年会懇親会助成 |
| 予備費 | 50,000 | 562,400 | 512,400 | 天皇退位・新天皇即位記念広告32,400円 RO1年度積立金として530,000円 |
| 合 計 | 2,002,000 | 2,301,692 | 299,692 | |

令和元年度 第11回秋田県新春書初め大会決算書

令和2年3月31日

(書初め展覧会 令和2年1月30日～2月2日)

収入総額 1,055,600円
支出総額 531,986円
差引残額 523,614円 (本会計繰り入れ)

収入の部

(単位：円)

| 費 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 増 減 | 備 考 |
|------------|----------------|------------------|----------------|--|
| 広告協賛金 | 600,000 | 690,000 | 90,000 | 協賛社46件 1件15,000円 |
| 参加費 | 0 | 365,600 | 365,600 | (幼、小、中、高、大学 計884人) (内一般 48人) 836人×300円=250,800円 48人×600円=28,800円 賛助出品(審査員・役員 43人) 43人×2,000円=86,000円 |
| 薄茶席売上 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 1,000 | 0 | △ 1,000 | |
| 連盟補助金 | 32,000 | 0 | △ 32,000 | |
| 合 計 | 633,000 | 1,055,600 | 422,600 | |

支出の部

(単位：円)

| 費 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 増 減 | 備 考 |
|---------------|----------------|----------------|------------------|-------------------|
| 魁 広 告 掲 載 費 | 378,000 | 385,000 | 7,000 | R01.12.13 魁新聞紙上掲載 |
| オープニング行事 委託費 | 0 | 0 | 0 | |
| お 雑 煮 等 委 託 費 | 0 | 0 | 0 | |
| 薄 茶 席 委 託 費 | 0 | 0 | 0 | |
| 華 道 連 盟 委 託 費 | 0 | 0 | 0 | |
| 書道パフォーマンス委託費 | 0 | 0 | 0 | |
| 司 会 委 託 費 | 0 | 0 | 0 | |
| 通 信 費 | 50,000 | 13,550 | △ 36,450 | 関係先への文書郵送料 |
| 消 耗 品 費 | 90,000 | 79,576 | △ 10,424 | 用紙、文具等会場整備用品 |
| 印 刷 製 本 費 | 20,000 | 0 | △ 20,000 | |
| 雑 費 | 2,000 | 0 | △ 2,000 | 振り込み手数料 |
| 表 彰 費 | 20,000 | 13,860 | △ 6,140 | 表彰景品代 |
| 筆 耕 費 | 45,000 | 40,000 | △ 5,000 | 賞状筆耕料 |
| 人 件 費 | 28,000 | 0 | △ 28,000 | 作品展示補助作業 |
| 合 計 | 633,000 | 531,986 | △ 101,014 | |

令和元年度 積立金現況

令和2年3月31日 現在

(単位：円)

| 項 目 | 積立金金額 | 備 考 |
|-----------------|----------------|-------|
| 前 年 度 末 残 高 | 261,622 | |
| 令 和 元 年 度 積 立 金 | 530,000 | |
| 預 金 利 息 | 2 | |
| 積 立 取 り 崩 し | 0 | |
| 合 計 | 791,624 | 次期繰越金 |



令和2年度 事業計画

| | 総 務 部 | 研 修 部 | 展 覧 会 部 | 広 報 部 | 広 告 部 | I T 部 |
|---------------------|---|---|---|----------------|---|---|
| 4月 理事会・ 総会は中止 | 監査会 4月8日(水)13時半～ 正副部長会議 4月12日(日)10時～ 理事・常任理事会 4月19日(日)13時半～ 総会・懇親会 4月29日(月・祝)10時半～ | | | | 会報発行に向けた 広告依頼活動 (総務部) | 連盟ホームページ の管理運営 (連盟の紹介、組 織図、行事カレン ダールの作成、各種 行事の参加者募 集、会報のイン ターネット公開、 等々) |
| 5月 | 県芸文協決算総会 5月29日(金)キャッスルH | | | | | |
| 6月 | | | | | | |
| 7月の 会議は中止 | ・正副部長会議 ・活性化委員会 7月19日(日)15時～ | | | | | |
| 8月の 行事は中止 | 筆供養・懇親会 (日吉八幡神社) 8月30日(日) 神事：15時半～ 懇親会：16時～ (パークホテル) | | 県書道連盟展 (アトリオン) 8月28日(金) ～31日(月) 互評会：30日(日) 13時～15時 | | | |
| 9月 | | | | 会報発行 (123号) | | |
| 10月の 行事は中止 | | 実技研修会 (秋田市) 月 日(日) 14時～ 懇親会 17時～ | | | 書初め大会と新春 小品書展に向けた 広告依頼活動 (広告部) | |
| 11月 | 書初め準備会議 (県立武道館) 11月29日(日) | | | | | |
| 12月 | | | 県芸文協会議 (フォンテ秋田) 12月4日(金) | | | |

| | 総務部 | 研修部 | 展覧会部 | 広報部 | 広告部 | I T 部 |
|----|---|--|--|----------------|-----|-------|
| 1月 | 新春書初め席書大会 (県立武道館) 1月10日(日) 書初め展覧会 (さきかけホール) 1月21日(木) ~24日(日) 授与式1月24日(日) | 新年研修会 1月 日(日) 10時半~ 懇親会 12時~ | 新春小品書展 (さきかけホール) 1月21日(木) ~24日(日) 書初め展覧会 (さきかけホール) 1月21日(木) ~24日(日) | | | |
| 2月 | | | 秀作美術展(予定) (県芸文協主催) 2月25日(木) ~28日(日) | | | |
| 3月 | 県芸文協予算総会 | | | 会報発行 (124号) | | |

付記

新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応として、総会等の年内の行事を中止する事としております。
 このような状況下でも何か工夫が出来るのではないかと、各部において検討しております。
 来年の書初め席書大会については、前回の様な展覧会方式での開催を検討しております。
 方向が決まり次第、皆様にご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

令和2年度 収支予算

自 令和2年4月1日
 至 令和3年3月31日

収入総額 1,906,000円
 支出総額 1,906,000円
 差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

| 費 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|------------|------------------|------------------|-----------------|---------------------|
| 前年度繰越金 | 261,899 | 252,721 | △ 9,178 | |
| 会費 | 750,000 | 690,000 | △ 60,000 | 本年度分 @3,000円*230名 |
| 寄付金 | 120,000 | 122,000 | 2,000 | 常任理事・理事 @2,000円*61名 |
| 事業収入 | 840,000 | 840,000 | 0 | 広告料、連盟展出品料 各事業収入 |
| 雑収入 | 30,101 | 1,279 | △ 28,822 | 利息等 |
| 合 計 | 2,002,000 | 1,906,000 | △ 96,000 | |

支出の部

(単位：円)

| 費 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|
| 事務費 | 387,000 | 307,000 | △ 80,000 | |
| 消耗品費 | 38,000 | 31,000 | △ 7,000 | 文具品、出納簿、コピー、諸費 |
| 通信費 | 159,000 | 136,000 | △ 23,000 | 郵送料、切手、案内ハガキ |
| 会議費 | 100,000 | 80,000 | △ 20,000 | 役員会議会場費等 |
| 交通費 | 80,000 | 50,000 | △ 30,000 | 役員会議旅費 |
| 諸費 | 10,000 | 10,000 | 0 | 振り込み手数料等 |
| 事業費 | 1,497,000 | 1,481,000 | △ 16,000 | |
| 総務部費 | 44,000 | 40,000 | △ 4,000 | 事務打合せ会場費等 |
| 研修部費 | 159,000 | 150,000 | △ 9,000 | 研修会、新年研修会、講師謝礼等 |
| 展覧会部費 | 266,000 | 253,000 | △ 13,000 | 県書道連盟展等 |
| 広報部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 会報発行諸費 |
| 広告部費 | 40,000 | 50,000 | 10,000 | 活動諸費 |
| I T 部費 | 108,000 | 108,000 | 0 | ホームページ維持管理費、取材費等 |
| 連盟展事業費 | 230,000 | 230,000 | 0 | 連盟展会場費、目録、ハガキ |
| 書初め大会費 | 32,000 | 32,000 | 0 | 書初め席書大会補助金 |
| 印刷出版費 | 467,000 | 467,000 | 0 | 会報、諸会合資料 |
| 筆塚供養費 | 51,000 | 51,000 | 0 | 供養謝儀、参加者(子供)記念品代 |
| 活性化委員会費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 通信費、会場費等 |
| 負担金 | 30,000 | 30,000 | 0 | 県芸文協へ 30,000円 |
| 表彰費 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 慶弔費 | 25,000 | 25,000 | 0 | |
| 雑費 | 3,000 | 3,000 | 0 | |
| 予備費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 合 計 | 2,002,000 | 1,906,000 | △ 96,000 | |

令和元年度 第12回 秋田県新春書初め席書大会 予算

席書大会 令和3年1月10日 (日)
 展覧会日 令和3年1月21日 (木)～1月24日 (日)

収入総額 1,035,000円
 支出総額 1,035,000円
 差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

| 費 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|-----------|---------|-----------|---------|---|
| 広 告 協 賛 金 | 600,000 | 660,000 | 60,000 | 協賛社44件 1件15,000円 |
| 参 加 費 | 0 | 320,000 | 320,000 | (幼、小、中、高、大学 計 480人) (一般 80人) 480人×500円= 240,000円 80人×1,000円= 80,000円 |
| 薄 茶 席 売 上 | 0 | 22,000 | 22,000 | 200円×110枚 |
| 雑 収 入 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 連 盟 補 助 金 | 32,000 | 32,000 | 0 | |
| 合 計 | 633,000 | 1,035,000 | 402,000 | |

支出の部

(単位：円)

| 費 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|-------------------------|---------|-----------|---------|-------------------|
| 魁 広 告 掲 載 費 | 378,000 | 385,000 | 7,000 | 魁新聞紙上掲載 |
| オ ー プ ニ ン グ 行 事 委 託 費 | 0 | 40,000 | 40,000 | |
| お 雑 煮 等 委 託 費 | 0 | 200,000 | 200,000 | 1,000食分の材料費、その他経費 |
| 薄 茶 席 委 託 費 | 0 | 50,000 | 50,000 | 茶席委託 |
| 華 道 連 盟 委 託 費 | 0 | 40,000 | 40,000 | 生け花展示委託 |
| 書 道 パ フ ォ ー マ ン ス 委 託 費 | 0 | 60,000 | 60,000 | 用紙代、及びその他経費 |
| 司 会 委 託 費 | 0 | 10,000 | 10,000 | |
| 通 信 費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 関係先への文書郵送料 |
| 消 耗 品 費 | 90,000 | 85,000 | △ 5,000 | 用紙、文具等 |
| 印 刷 製 本 費 | 20,000 | 20,000 | 0 | インク代等 |
| 雑 費 | 2,000 | 2,000 | 0 | 振り込み手数料等 |
| 表 彰 費 | 20,000 | 20,000 | 0 | 表彰景品代 |
| 筆 耕 費 | 45,000 | 45,000 | 0 | 賞状筆耕料 |
| 人 件 費 | 28,000 | 28,000 | 0 | 作品展示補助作業 |
| 合 計 | 633,000 | 1,035,000 | 402,000 | |

第12回秋田県新春書初め大会開催のお知らせ (令和2年9月 総務部)

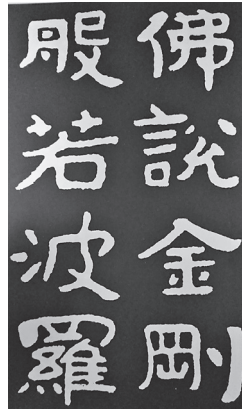
- 1.新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの人が集まる席書は行わず、書初めの展覧会として開催します。
- 2.会場は、さきがけホール(秋田魁新報社1F)です。
- 3.参加料は、昨年同様に子供～大学まで300円、大人600円です。
- 4.作品受付は、秋田魁新報社にて窓口と郵送で受け付けます。
 期間は令和3年1月12日(火)から1月21日(木)までです。
- 5.展覧会(連盟小品展を同時開催)は、令和3年2月4日(木)から7日(日)(午前10時から午後5時)までです。
 ただし、初日のみ正午から、最終日は午後4時までです。
- 6.授賞式は、令和3年2月7日(日)午後3時から特別賞と推薦の表彰を行います。
- 7.搬出は、令和3年2月10日(水)～19日(金)午前10時～午後4時まで(土日祝含む)とし、
 その期間中秋田魁新報社にて作品を返却します。希望者には着払いにて返送します。展覧会最終日の作品返却は行いません。
- 8.詳しくは、魁新聞紙上に掲載されます。

泰山金剛經(泰山経石峪金剛經)



後藤 武之

県立秋田明徳館高等学校長



筆者不明
中国北斉期(五四四〜五七九頃)

高校生のころ、父(竹清)から、数枚の「泰山金剛經」の原拓(墨拓と朱拓)を見せてもらったことがある。当時書道のことにはよくわからなかったが、素朴で何ともいえない大らかさを感じた。また、父がよく飲んでいたので、由利本荘市の銘酒「天寿」のラベル文字が、この泰山金剛經から集字されたものであることも知り、この古典を身近に感じた記憶がある。

この文字が残されている中国山東省・泰山は、約二千年にわたり、秦の始皇帝をはじめ、歴代の皇帝が「封前の儀」(国家統一を天に報告し、天下泰平を感謝する儀式)を執り行った場所である。その泰山の中腹、経石峪と呼ばれる谷間の緩斜面に「泰山金剛經」が刻されている。書体は隸意を帯びた楷書体で、一字の大きさは四〇〜五〇センチにもなる。二七九九字の金剛般若経を刻したものであるが、古意に溢れ、大字刻経として真っ先に思い浮かべられる傑作である。現在は摩滅がはげしく、約九〇〇字が判読できる状態であるが、粗野な線の肌が野趣に富み、朴訥なムードをかもしだしている。

技巧を駆使せず、力を誇示しなくても存在感を示す。そんな書の極意を感じさせてくれる古典である。



泰山金剛經から集字した「天寿」

(大吟醸は後藤竹清書)
写真は天寿酒造提供

総合書道用品販売

- ◎ 展覧会・企画・展示
- ◎ 〈表具〉〈額装〉〈軸装〉
- ◎ 各種展覧会搬入搬出承ります
- ◎ 文房四宝・低価格にて提供しております

株式会社 クラヤ

〒010-0952 秋田市山王新町4-5
TEL 018-863-6001 FAX 018-863-6004
ホームページアドレス <http://www1.ocn.ne.jp/~kuraya>
メールアドレス kuraya@seagreen.ocn.ne.jp

美術表装一式

掛軸、和額、屏風、襖

中山表具店

〒011-0917 秋田市飯島道東二丁目4番10号

TEL 018 (846) 8496

新型コロナウイルスの影響により、書道連盟の12月までの事業がすべて中止となりました。そのため、9月発行の会報では、日頃、書に対しての想いや、書との出会いなど自由に書いていただくことにしました。ご執筆くださいました方々に心から感謝いたします。

「学ぶ」ということ

秋山 由美子 (由利本荘市)



新型コロナウイルスのため、この春、毎年取り組んできた毎日展も、そのほかの展覧会も、中止になってしまいました。私は小学校の教員をしています。学校の中で最も大切な三月から四月の「時間」が突然何の前触れもなく奪われたことで、心の中の何かが折れてしまったような思いをしました。それでもやるべきことは山積みなので体と頭は動くのですが、何かを始めようとか学ぼうとか、そんな気がどうしても湧いてこない日々が続きました。

五月、子供たちがやっと学校に戻り、私は六年生の書写の時間を担当しました。楽しい書写の経験をお願い、小さな色紙に大切にしたい漢字を一字書くことから始めました。それから限られた時間の中で、半紙1/2に自作の俳句を書いたり、色上質紙で作った短冊に短歌を書いたりする学習を取り入れてきました。そして、そのたびに、子供たちの目が輝き、喜んで筆を持つ姿を見ることができました。「学ぶ」とは、このように心躍る、わくわくするものだったのだ、と改めて教えられた思いでした。それと同時に、初めて毎日展の大きな紙の前に座った日の自分の姿を思い出しました。

今、亡き師、後藤竹清先生がよく言われた言葉をかみしめています。「勉強する指導者の下で、勉強する生徒が育つ。」学ぶ楽しさを子供に伝えることができるよう、自分も学んでいこうと思います。

「書道をつづけて」

大屋敷 玉舟 (秋田市)



私は三浦湯舟先生の藍荀会教室で、ご指導を受けて、三十年にもなりました。筆を持った事もない私が小筆で手紙を書いてみたいと思い、「保健センター」に申し込んだのが始まりでした。先生は墨の硯り方から始まり、大筆で「あいいうえお」の基礎から教えて下さい

いました。先生に勧められるまま、いつの間にか条幅を書くようになり、教室の書友と書道連盟に入会し、展覧会にも出品させていただきました。行き詰った時も先生や教室の先輩に励まされ、長い年月を過ごしております。古筆を学び、時には私の苦手な漢字の「千字文」も教わりました。先生の美しくも鋭い線は、今もって書けず、くり返し、繰り返しのお稽古です。

昨年は「新春書き初め席書大会」で大勢の諸先生に囲まれ、緊張しながら、加藤隆枝先生の「鳥海山」の歌を書いたのは、私の一生の思い出であり、作品は私の宝物になりました。

今は気力、体力の衰えを感じる年齢となりましたが、長い間の書の友とのお付き合いを大切にして、この幸せが未長く続く事を願っております。

「書つともい」

小田島 和翠 (横手市)



私が書を習い始めたのは、息子が小学生の時に藤原瑛翠先生の書道教室に通い始めた事がきっかけとなりました。自分の気持ちの中では筆で綺麗な字が書けたら、仕事の上でも役立つと思ってお願ひしたものでした。快く引き受けては戴いたものの、藤原先生の経歴はもろろん現在も東京へ通い勉強をしている先生と知り、書道についてほとんど無知な自分にとっては、これ以上望む事の出来ない身に余る先生であり恐縮そのものでした。それから今日までの数十年の間で仕事の上で思うように稽古に行けない時期もありましたが先生が寛大な心で導いて下さったお陰で現在に至っております。

毎月のお稽古、毎年の書道展への参加、数年に一回の社中展等の作品制作、又県内や東京で開催される書展を見に出かけては書道会の第一線で活躍している書家の方々や多くの他の人たちの作品を直接見れる事は、楽しみと同時に刺激も受け、良い勉強になります。先生はこのような機会や各種の集まりの場でも、書の技術的な指導だけでなく書道に関するありとあらゆる面について指導して下さいるので本当に感謝です。

これまで漫然と時を過ごして来たことを反省し、良き師に恵まれ、同じ志の仲間、協力してくれる家族のおかげで好きな書を書いて、暮らしの中に生きているのがうれしい限りですし、今後共前向きに書道に関わり続けたいと思います。

「私の宝物」

鎌田 江葉(秋田市)



私が書道を始めたいきっかけは、「子供が小さいうちに将来に向かって何か習い事を始めたら。」の母のアドバイスで、ご縁があつて、東海林汎山先生へ入門したのが昭和五十七年三月でした。ちょうど二番目の子を妊娠中で、多少不安もありましたが、お稽古をお休

みしたのは産休の三カ月のみで三十八年になります。子供が幼稚園の頃から書道塾も開かせていただき、今では親子二代になる方もいて、指導者としてこんな嬉しい事はありません。東海林汎山先生には東京本部の錬成会(日展理事、星弘道氏主催)や展覧会に連れて行ってもらい、書家の末席に入れてもらうようになりました。書道活動は生活の一部です。

書道を始めた時から一番の協力者だった主人を昨年亡くし、今一周忌を終え心新たに書活動に励みたいと思つているところです。

書道は私の宝物です。今は新型コロナウイルスの為、展覧会が止まつており、早くコロナが終息するよう、願つています。今後共、どうぞよろしくお願い致します。

「私の師匠」

小坂 白悠(秋田市)



私の師匠は故菅原白峰先生です。超長鋒の筆を自由自在に操り、書の五体を楽しそうに揮毫され「上手いだろう」と笑みを浮かべておられました。以前奥様からこんなお話をお聞きしたことがあります。教員退職後は毎日朝早く起床され昼まで字を書いておられた

そうです。そして昼食後も筆を持ち、結局、一日中時間があれば字を書かれています。そして「オレはな書道家でなく技術屋なんだ」とおっしゃつていた先生、記念碑、学校校歌、施設看板等の文字を書かれておりました。白峰先生と私の出会いは小学一年の時です。書をやっていた母に連れられ母の実家である潟上市の白峰書院へ伺いました。稽古場に漂う墨の香り、そして白峰先生御夫妻の優しい笑顔、今でも鮮明に覚えております。

「師の教え」

小松 清峯(大仙市)



私は、社会人となった二十歳の時に書道の通信講座を受講し、当時は競書誌に昇級の〇印がつくかどうかに一喜一憂しながら書いておりました。その後、縁あつて故加藤秋窓先生に師事いたしました。最初の教室では師の豪快さと繊細さを併せ持ったスピード感溢れる筆さばきに圧倒されたものです。

師からは、作品づくりの技法や書に対する心構えを学ぶことが出来ました。印象に残っていることは、墨の潤濁と文字の大小、行間の余白を考慮した作品づくりを努めること。書の生命線は線質、故に勢いのある生きた線を引くこと。これらは正しい姿勢から生まれること等です。また、錬成会の深夜、湯舟に浸りながら「清峯君、書は急にうまくは

ならないよ。今晚の頑張りがいつか結果として現れるものだよ」と淡々と語りかけてくれたことが昨日のように思い出されます。師匠が急逝して早や二十一年。師亡き後は、秋田墨滴窓友会(ぼくてきそうゆうかい)の書友の皆様と共に、想いの書を求めて切磋琢磨しております。

師の年齢に近づいてきた私ですが、書いても書いてもなかなか満足いく書とはならず常に未熟さを感じております。それでも楽しみなながら焦らずにじっくりと、真摯な心で書き続けていきたいと思つております。

「私の書道と空手道」

佐藤 晃山（井川町）



私が始めて書を習ったのは、井川東小学校五年生の時でした。五年・六年と二年間、当時の担任の先生から指導を受け、展示会へ出品したのを覚えております。中学校ではスポーツをやり特に書を勉強する事はありませんでした。中学三年頃になり、近くに住む高校生から空手の指導を受け、高校へ入学と同時に空手部へ入部し三年間続けましたが、皆親切な先輩後輩達で、色々な事がありました。今思うと悔いのない青春時代の思い出です。

高校を卒業して大学へ進みましたが、東京渋谷のお寺での生活でしたのでクラブ活動に入る事は出来ず、好きな書道は通信教育を受け毎月作品を送り自分なりに勉強していた様な気が致します。一方空手も諦めきれず、夜、当時杉並に在りました本部道場へ通い、会長・諸先輩より道場生と一緒に稽古・指導を受け、自分なりに頑張ったことを思い出しております。

昭和四十六年に秋田へ帰って来ましたが、今は亡き湊祥山先生の誘いを受け、故人となりました佐藤秀湖先生の門下生となり書道の厳しさを知りました。湖心会解散の後は諸先生より指導を受け現在に至っております。

空手道は秋田へ帰ってすぐ本部道場へ行き初心に帰り稽古を続けている内に南秋支部設立後にスポーツ少年団設立、現在も指導しております。文武両道とは何か、まだまだ追求する事が沢山ありますので向こうからお迎えが来てもお断りいたします。

「書」で得る人との出会い

篠田 溪山（秋田市）



書道を始めるときつかけは、勤務先の学校で、生徒への賞状の生徒氏名を書かされたことです。自分の字の下手さ加減に気が付いてからは生徒が気の毒で、意を決して「書」を習うことにしました。私が五十三才の時でした。

十五年経た今でも、字はうまく書けていませんが、退職してからの二年間は「書」があるおかげで退屈しないで済んでいます。中島司有という書家の言葉に「四十五は鼻たれ小僧、六十、七十は半人前、八十ど

うやら一人前、九十になったら化けてみる」というのがありました。この方は小学二年から書道を勉強してきたそうで、私とは書歴六〇年の差があります。そうすると私はあと二十年頑張っても鼻たれ小僧の域にさえも届かないことになりました。それでもありがたいことに、「書」のおかげで様々な人と出会うことができました。まず今の師匠安保溪鹿先生です。先生は褒めて育てるタイプのように、楽しく学んでいます。次に書道教室の同門の仲間、そして秋田市書道会や県書道連盟の会員や役員の皆さんです。さらに加えたいのが、古典作品の書家の方々です。彼らの「書」を学ぶと、必然彼らの人生に触れることになりました。「書」は私に様々な人との出会いを提供してくれました。今後その出会いに期待し、「書」の世界に浸っていきたくと思っています。

「書・師との出会い」

竹内 玄峰（湯沢市）



三十五年ほど前、妻は書道を始めました。師は東方書人社を主催する佐藤蒼龍先生です。私は元来、スポーツに興味を持ち、息子の二人も学生ながら柔道の世界でした。書には疎遠でしたが、家で墨の香りに触れたり筆の動きなどを視ているうちに、何となく書にも惹かれるようになりました。

毎月一回の蒼龍先生の勉強会に思い切って参加してみました。初参加の日、競書の練習中に蒼龍先生が側に来られて「こは、こう書くのだ」とアドバイスを受けたときには、小学生が壇上に上がった時のような緊張感で手が硬直し筆が進まなくなったことを今でも鮮明に憶えています。

蒼龍先生は当初から、漢・北魏・唐時代の碑の拓本や法帖などの臨書の指導が中心で、私には中国の古典など到底理解できるはずもありません。

たまたま書道連盟の北畠龍門さんとは旧知の仲でしたので、平成五年春、連盟に入会させていただき、特に後漢の曹全碑の臨書に取り組んでみました。最初は妻と二人、三人の勉強会も次第に人数が増え、わが家の二階が落ちんばかりになりました。午後七時頃より二、三時間の静寂、そして後の酒宴、これまた楽しかったですね。妻は退職後まもなく体調を崩し元気な頃の屏風仕立ての自筆の書が今は形見となってしまいました。

お盆には息子や娘、孫達に墨や筆の話でも持ちかけてみようかと思っている今日この頃です。

「書との出会い」

寺田 玲子 (羽後町)



心に響く書に出会った。それはお茶室の床の間にあった。短冊に書かれていたのは「二期一会」。初めて参加した体験学習で、どきどき緊張して入室したそのとき、すうつと吸いつけられたその四文字の美しさが、今も忘れられない。決して大きくはないが、存在感と、何か響いてくるものがあつた。それ以来、書に心をとめるようになった。

その後、北畠龍門先生から、様々な作品を見せていただく機会を得たが、いつも読めなかった。先生の解説を伺って、ようやく「なるほど」と理解でき、謎解きのような時間が楽しかった。先生の文字の美しさもさることながら、書かれる姿も強弱のリズムがあり美しい。私もこんなふうに書けるようになりたいと思うようになった。子どもの頃は習字が苦手で、できれば避けて通りたいぐらいだった。北畠先生からは「書き慣れることです。」とアドバイスをいただき、少しずつでもやり続けることが大事なのだと感じた。

私の同僚は、季節にあつた詩を選び、筆で書いて廊下に掲示してくれている。優しく美しい文字に、通る人たちが足をとめる。心がけていることを聞いてみた。「ゆつくり丁寧に書くこと」と答えが返ってきた。様々な出会いを通して、慌ただしい日常の中でも、書に心をとめること、静かに文字に向かうことを大切にしていきたいと感じている。

「書つものめぐり逢い」

保坂 省峰 (秋田市)



毎週夜見ていたテレビ番組で、水戸黄門と書いた題字を見て、いつかは自分もこんな文字を揮毫できればと思っていました。

筆者は朝比奈宗源(臨済宗僧侶)が書いたものでした。そんな時期に職場の同僚と時々通っていた喫茶店の経営者が書道教室に通っているとの話を聞き、平成二年六月に書道教室を紹介して頂いたのが書道を始めたきっかけでした。数日後に先生を紹介して頂き、師匠森川柳岱先生との出会いでした。

仕事はJ.Rの通信の保全が中心で不規則な勤務の中にあり、秋田県と青森県の担当で忙しい中、教室に通う時間を作る為苦勞をした思い出があります。

教室には秋田書道展無鑑査の先輩が数人おられ、先輩方の助言等を受

けながら、一年半毎に開催の柳門書道展にも出品、年二回の錬成会にも参加、年一回の柳門書道会の旅行にも参加し楽しい思い出が沢山あります。

また、恩師との出会いの中で自分は色々失敗した経験があり、書道界のみならず「道」のつく稽古事の礼儀等についても、恩師や先輩からご指導頂いた事を今も有難く肝に銘じております。

退職後の現在は、微力ながら秋田県書道連盟と秋田市書道会の役員をしながら、書道を楽しみたい方々と勉強会を開催し、書道を楽しんでおります。

「大切な基礎基本」

山谷 喜元 (大仙市)



秋田県新春書初め席書大会も十一回を数えるまでになりました。第十回の記念大会では秋田県の弓道と剣道の両連盟会長による武道演武を行っていただきましたが、両先生には若い頃に大変お世話になっており、数年前から武道再開のお勧めもあり、悩んだ末に弓道を再開することとしました。稽古を再開して改めて古くからの伝統の大切さを感じております。

弓道は古い武道ですが、古いといっても、書のように数千年からの資料がある訳ではありません。日本では、飛鳥時代末期には朝廷において礼射、礼法が整理され、また同時に技術も体系化され、単なる射術から『弓術』として成立して行くのですが、今から千三百年ほど前のことです。現在の弓道は、昭和になってから制定されたものですが、私が所属する古流である小笠原流では、現在も全国の主要な神社等で古式による作法で国家の安寧を願い、魔性退散等の清めの神事を行っております。一月の成人の日に明治神宮にて行われた百々手式には射手として私も参加させていただきました。

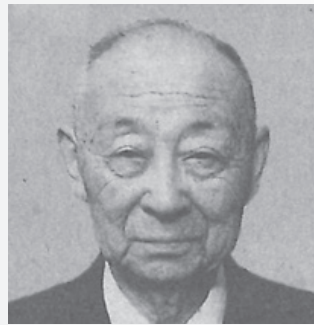
弓道では常に基本を正しく堅持する事が強調されます。長い修練の間には、邪道に深入りして迷い込む場合が多く、末節に落ちて技巧や小細工を追求者もでてきます。しかし、技巧がいくら優れていても評価は低くなります。呼吸や目づかい、射の前後の動作や間合い、場の掌握といったことが大切と言われています。基本の大切さ、古流の教えなど、書に繋がる部分の多いことに気づかされます。

場の掌握といえは、私の書の師である長沼先生が中国山東省藤州市の王学仲芸術館の一室全体に展示した作品群は、まさにその広い空間全体が調和の取れた一つの作品となっており、見るものを魅了しておりました。これからも、古典に学び、基本を大切に精進して参りたいと考えております。



内藤翠雲先生ご逝去

(元秋田県書道連盟理事長)



根 義鎮

秋田県立新屋高等学校長

「偉大なる恩師」

謹んで内藤先生のご冥福をお祈り申し上げます。

私と先生の初めての出会いは四十年以上前の私が高校生の時でした。私は書道部に入学しましたが、その時の顧問が内藤先生でした。それから現在まで長い間師匠と弟子という形でご指導いただきました。常に書に関するお話をたくさんされ、叱咤激励をされたものです。全盛の頃はお弟子さんも百人以上おり、その書に向かう真摯な態度がお弟子さんたちを魅了し、たくさん集まったのだと感じております。ご自宅にお邪魔した際に、奥様から何回か伺ったお話です。お子さんが小さかった頃に、「ミルク代も書いてしまったもの。」とよくおっしゃっておりました。本当に筆を持つことが好きだったというエピソードでありました。

病床に伏されて数年、大好きな筆を持つことができず、さぞかし苦しかったでしょう。そちらの世界では思う存分腕を振るっててください。そして、私たちの頑張りを遠いところから見守っていただければと思います。今まで本当にありがとうございました。

筆、墨、硯、紙から額縁まで全品3~4割引
貸額、軸装、古軸仕立て直し承ります

書道用品専門店

東方交易 秋田店

午前10時~午後5時(日曜日・祭日は午後5時迄)

〒010-0001 秋田市中通1-2-3
リバーサイド秋田ビル5F 502号
TEL / FAX.018 (837) 2220

特設コーナー他お買い得商品が満載 ネットショッピング

東方交易 検索 **楽天・Yahoo・amazon**
はがき、電話、FAXでもどうぞ

一般書道 総合誌
教育書道



67年の歴史をもつ秋田県随一の月刊書道誌
書写指導に好評を得ております。

書友社

〒010-0954 秋田市山王沼田町11-11
TEL 862-3484 FAX 862-3485

あなたの発想を



カタチに。



株式会社 塚田美術印刷

〒010-0921 秋田市大町一丁目6番6号

TEL 018(823)5551(代) FAX 018(823)5553

那 墨痕あざやか 波

あなたの筆勢を伝える筆。
「書」の心をうつす墨、紙。

那波紙店

〒010-0921
秋田市大町四丁目3-35
☎ 018-823-4311(代)

会員募集

日頃から本会の運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
 本会は、より多くの書道を愛好する皆様に活躍と研修の場、作品発表の場、会員相互の情報交換の場などとしていただくため活動しております。

会員は随時募集しておりますので、事務局までお問い合わせ下さい。ホームページもごらん下さい。

事務局 秋田市泉菅野一丁目18-1 三浦湯舟

ホームページ <http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>



おめでとうございます

第60回 日本書作院展

・第一科受賞者
 常任理事

審査員特別賞 東海林 汎山 (三回目)

同人

奨励賞 鎌田 江葉

・第二科受賞者
 準同人

特選 佐々木 嶂芳

書道展紹介

・竹村天祐作品展 ～高橋馨歌曲選集を書く～

日時：令和2年5月20日(水)～6月2日(火)

場所：画廊喫茶ブランカ (大仙市)



(書展会場)

・秋田市書道会企画展「東北のうた・秋」

日時：令和2年9月9日(水)～9月22日(火)

場所：秋田市フォンテAKITA6階
 あきた文化交流発信センター



ご案内

・第38回秋田墨滴窓友会書道展

日時：令和2年11月6日(金)正午～11月8日(日)午後4時

場所：花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」産業展示館(入場無料)
 大仙市大曲大町7番19号 TEL.0187-73-7931

編集後記

例年通り自然は歩みを止めず、桜は美しく咲き、散って行きました。古人は、桜を美しく、あるいは悲しくなどと、多くの歌を残してくれました。彼らなら、今年の桜をどのように歌ってくれたでしょう。今はただ、コロナ禍が終息にむかい、世の中が明るくなっていることを望んでおります。【清楓】

【広報部】

| | | |
|-------|-------|--------|
| 部員 | 部長 | 副部長 |
| 荒川 康一 | 角田 萩瑠 | 伊藤 雅人 |
| 伊藤 藤子 | 伊藤 清子 | 東海林 汎山 |
| | | 阿部 清楓 |

※連盟加入の会員の団体・個人で展覧会開催日の掲載を希望される場合は、事務局にお知らせ下さい。